

活動報告

前月号以降の活動

●第1305回 役員会 4月16日(火) 15:00~18:00
役員3名、常任理事4名、監事1名、事務局2名 開催場所:JBN会議室
【あいさつ】
・青木会長
全国組織JBNとしての初めての総会を控え、緊張している。これまでの社員に加えて、65の連携団体の代表も出席される。手続き、書類などの不備は許されないので万全を期したい。JBN連携団体の未組織県が10あるので今年中にはなんとか解消したい。各種規程類は、大野常任理事のご苦勞で整備が進んでおり、あわせて事務局体制の整備に反映させたい。メディアとの懇談会をもち、情報の発信、交流を深めていきたい。今年、会員を増やすのを第一に考えているので、これまでの成果物を活かせるようなツール、機会を増やしていきたい。昨日は、国交省から6名の担当官がヒアリングに来訪、意見交換を行ったが、期待に応え、協力していきたい。
・藤澤センター長
青木会長は、新年度ということで全国各地の団体、機関の総会などへ出席される機会が増えている。留守の間も、事務局が混乱なく、うまく機能していけるように足元固めに務めたい。

【主な報告】
1) センターレポート(No.46) 関連、JBN委員会・WG報告等
2) 会員実数、住宅履歴登録数等
会費更新期のため会員数の確定は6月末の見込み。
3) 4月末の財務諸表について
4) 会長の新年度所信

【主な議題】
1) JBN協力会員加入の件
申請のあった1社を承認した。
2) 理事会・常任理事会規程(案)の件
案を承認した。役員会の正式名称を常任理事会とするが、当面は役員会を通称とする。
3) 委員会の設置、運営に関する規程(案)の件
(案)が説明され、次回以降の継続審議とした。
4) JBN連携団体に関する加盟規約(案)の件
承認した。
5) 諸規程の件
就業規則のうち、事務局職員の給与規程・慶弔規程を承認し、旅費規程は継続審議とした。
6) 会合への会長・役員の出席規程(案)の件
承認した。
7) 書面理事会議事(案)の件
資料の作成、手続きは慎重に進めることとし、承認した。
8) 第6期(平成25年度)定期総会議題(案)の件
資料の作成、手続きに慎重を期すことを確認し、承認した。
9) JBN顧問弁護士との件
JBN顧問弁護士として匠法律事務所(秋野弁護士)との契約を承認した。

次回 常任理事(役員)会 2013年6月11日(火) 11:00~13:00

青木会長の動き

2013年4月16日~5月15日
4月
・22日(月) 現代計画研究所 今井社長、マーケット打合わせ
スマート&スリムハウス研究開発委員会出席
新建新聞 三浦氏社長就任パーティー
・24日(水) センター長と打合わせ
・25日(木) センター長と打合わせ
・30日(火) センター長と打合わせ
5月
・7日(火) 秋田県知事と災害協定懇談 事務局長も
・8日(水) 公明党議員委員会にてJBN取組み説明、秋野弁護士来訪
・9日(木) 全木協運営会議
・10日(金) 青森県優良住宅協会総会にて講演、和田理事も
・13日(月) 国交省ヒアリング、次世代の会と
・14日(火) 役員会
・15日(水) 広島県災害協定 全木協(右欄に記事)
・16日(木) 地域ブランドJBN説明会
中古住宅流通WG
・20日(月) 広島全国大会実行委員会
木材利用ポイント説明会林野庁(P1に記事)
メディア懇談会(右欄に記事)
・22日(水) 福井県家づくりの会総会
・23日(木) 岩手県中小建築業協会総会

委員会・WG報告

●活動報告 ○活動予定
次世代の会
●第1302回 5月15日(水) 13:00~17:00
会場:柏木工・安上ホール 参加者:25名
①13:00~14:00 家具メーカー「柏木工」新宿ショールーム見学
②14:15~15:15 次世代ディスカッション「各社の契約約款と契約条件について」
③日経BP 安達氏講演

大型木造研究委員会
●総括会議 5月20日(月) 15:00~17:00
会場:TKP京橋BC 参加者:8名
・平成25年度の取り組みについて
・参加者 ディスカッション

既存改修委員会
●総括会議 5月10日(金) 16:00~17:30
会場:JBN会議室 参加者:7名
・過年度の取組みの総括と今後の委員会活動の在り方について
・本来の委員会活動と補助事業との有機的な在り方、メンバーの習熟と固定化など

マーケット委員会
●総括会議 5月13日(月) 16:30~18:00
会場:JBN会議室 参加者:8名
・今後の取り組みについて
・パナソニックソリューションズの太陽光発電商材の取扱について
・ERIソリューションズのエスクロシステムについて

国産材委員会
○正副委員長会議 6月21日(金) 11:00~12:30
会場:JBN会議室
○第一回研修会 6月21日(金) 13:30~16:00
会場:TKP東京駅前カンファレンスセンター
・京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 古田裕三 准教授の講演

環境委員会
○第1301回 5月29日(水) 14:00~18:00
会場:東京八重洲ホール901会議室
・各種省エネ系補助事業情報交換
・2020年省エネ基準義務化に向けての技術動向ほか。

中古住宅流通WG
●第1302回 5月16日(木) 15:00~17:20
会場:JBN会議室 参加者:9名
・株式会社総合研究所 小沢室長からレクチャー 国交省の不動産流通市場活性化事業の取組みのうち、全国12地域協議会の現状と課題の報告をうけ討議

●委員会活動について
委員会の活動目的、成果目標をより明確にし、より効率的、効果的なものにするべく、体制・運営などの見直しを進めております。これまでの活動の成果も踏まえながら、段階的に新しい体制へ移行することになります。(F)

●広島県と締結一災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定

5月15日(水) 14時より、広島県庁にて調印式が行われました。全国木造建設事業協会が、都道府県と協定を結ぶのは11番目、中国地方では初めてとなります。署名のあと、湯崎秀彦知事は「現時点では大きな安心につながるし、災害時には円滑な対応に備えられる」、全木建 青木理事長は「情報交換を密にして、万が一の災害に備えたい」と述べました。

●協力メディアとの懇談会
5月20日(月) 17:00より、JBN協力会員のメディア7社を招き、第一回懇談会が開催されました。JBNの活動状況の効果的な広報、事業および主要プロジェクトへの参画、協力メディアを通じての情報収集、JBNを介してのメディア会員間の交流などが目的です。この日は、日経ホームビルダーの小原編集長、島田次長、新建ハウジングの三浦社長、竹内編集長、日刊木材新聞の橋本編集長、住宅産業新聞の遠藤記者、日本住宅新聞社の大川原編集長、ハウジングトリビューン(創樹社)の中山社長、日本物流新聞社の牛尾記者、合わせて9名が参加されました。JBNからは会長をはじめ7名が出席し、JBNの活動内容などを説明し、協力を要請するとともに意見交換を行い、交流を深めました。



左から広島県工務店協会 河井会長、広島県湯崎英彦知事、全国木造建設事業協会青木理事長、同 澤田専務理事、広島県建設労働組合 安元執行委員長



JBNの活動内容を説明する青木会長

JBN(都道府県)の活動

地域工務店のソコヂカラ 第6回 日本の家をつくる

JBN静岡県 会長 松井進

わが社は静岡県浜西市に本拠を置き、事業を展開しています。私たちの家づくりは「設計事務所がつくる家」、「日本の家をつくる」を標榜する工務店として「お客様からの見られ方」、「お客様への見せ方」を模索し、サン工房のイメージづくりを(ひと・もの・こと)に重点をおいて事業活動を進めています。
現在の社屋はギャラリー・アトリエ・建築資料館の3つの建物からなり、それぞれに築年数もコンセプトも違いますが、事務所も兼ねた居心地空間として、またお客様に魅力ある工務店として、見られ方、見せ方を意識し、魅せる、魅せられる社屋の活かし方を追究しているところです。
アトリエでは「日本の家をつくる」をテーマに、安らぐ、佇む、寛ぐ、愛でる、触れるなど、住まいを五感で体感できる場として開設しました。日本の伝統的な建築構法を取り入れた空間に、様々な仕掛けを施し、楽しんでいただいています。サン工房の家づくりのもうひとつの基本は、次の「守り手」をいかに育て、「長寿であろうとする意志」をいかに伝えていくか、です。浜松においても当社をとりまく環境は、今後ますます厳しくなるだろう

と想像しています。消費税率引上げ、その他の増税の影響、大手建築会社との競合はこれまで以上に激しくなってくると考えています。そんな中で工務店一社では出来なかったことがJBNの組織的な活動を通して実現し、活用できるようになったことが、私たちサン工房にとって良い影響を与えてくれています。
しかしながら、それだけでは発展はありません。会社の運営でも代表が「将来を見据えて手を打つこと」が常に不可欠であるように、組織的な取組みも同じであると考えます。そのためにも地域工務店ならではの出来ることを見つめなおし、改めるべきところは改め、今後の状況に対して手を打ち、実行に移していくことです。志を同じくする地域の会員の皆さんとともに頑張っていきたいと考えています。



サン工房社屋・アトリエ

●報告「若手大工の雇用・育成」に関するアンケート調査

地域工務店の現場施工にとって要となる大工の不足が懸念される事態が伝えられています。JBN・サポートセンターでは、こうした状況をふまえ、昨年度より若手大工の確保・育成・雇用のありかたを点検し、工務店業界としてどう取り組むべきかの活動を進めているところです。昨年度からJBNが実施した国土交通省・木造住宅等の施工能力向上・継承事業「大工育成のための短期集中研修」もその一環であり、本年度も引き続き事業の継続が決定しています。また、昨年度の国土交通省・住宅市場技術基盤強化推進事業として「木造技能者育成検討WG」(主査・藤澤好一)が設置され、関連省庁、業界関係者、学識者により広範で根源的な討議を重ねてきました。その過程で示されたあるべき道すじの一つが、地域工務店が大工を正規社員として確保・育成・雇用し、キャリアアップをはかりながら内部の有効な人材として処遇するという方針でした。JBN・サポートセンターでも、急きょWG準備会を設け、調査、検討を実施し、報告書(大工の正規社員化の課題と対応策)をとりまとめたところでした。本年11月には、JBN全国大会in広島に合わせて「第1回・大工エキスパートJBNマスターズ」が開催されます。この技能競技大会の位置づけ、対象とする参加者、送り出す事業所、競い合う能力、課題と評価のあり方を含む大会の性格、運営の方針とともに、これらを通して若年大工の確保・育成、能力評価、そして処遇と定着につながる仕組みを全国組織・JBNがどう構想し、構築に向けた活動が展開できるか、極めて重く困難なテーマに着手するようになりました。木造住宅産業の将来に向けて、どのような大工を必要とし、どのように育て、業界・企業としてどのように処遇していくのか、今回の調査でもこのテーマに対する会員間の意識には相当な温度差がみられ、足並みをそろえ、同じ方向へ歩み出せるかどうか疑問です。これらの現実と切実で難しい課題に向き合うための一資料として、調査結果の概要を紹介いたします。

実施期間:2013年4月15日(月)~22日(月)の一週間
実施方法:FAX送信(主旨および設問、回答用紙2枚)と返信(回答用紙1枚)
有効回答数:447社(回答率18.2%/発送数2,455社)
集計分析:JBN・サポートセンター

○回答企業の平均像
本年2月に実施した「リフォーム調査」の441件(18.0%)とほぼ同じで、会員の協力と関心の高さがうかがえます。都道府県別では、長野、愛知、神奈川、埼玉、茨城が、ブロック別では関東、北信越、中部が多く、回答ゼロは3県でした。大工を除く社員数による企業規模では、1名から5名が全体の39%、6名から10名が34%で、全体の¾を占めています。社員数が3.5~7.5人が最多で、技術2、事務1.5、設計1、営業1が平均的な人的構成でした。年間の総工事額の規模では、5千万円から1億円未満が17%、1~3億円が39%、3~5億円が17%で、5億円未満が全体の78%を占めます。うちリフォーム工事額の割合では、10~30%が40%が最多数ですが、30%以上も40%で、リフォーム工事の比重の高さがうかがえます。

○大工の雇用状況
回答企業に「その都度外注」以外で働く大工総数は3,502人で、そのうち正規社員(824人)、専属常用(880人)、専属外注(1,798人)として区分され、これら大工の平均は、7.8人でした。それぞれの内訳は24%、25%、52%で、正規、常用は社員数10名以下の規模の企業で比較的高い傾向が、年齢別では、正規が20、30歳代、専属常用は50歳代以上が比較的多い傾向が見られました。

○新卒者の正規社員としての採用・育成
積極的に進めたい(20%)、適材がいればやりたい(58%)、そのつもりは

ない(17%)で、大勢が前向きでした。しかしながら、JBNが昨年度実施した「短期集中型(3泊4日程度で年3~4回開催)の規矩術(差し矩使いによる墨付け)の研修については、大いに期待したい(35%)、どちらともいえない(47%)、その必要はない(7%)という評価となりました。

○回答企業の大工への期待
工務店が注文住宅のセールスポイントとして重視しているのは、設計能力とともに大工の存在が上位でした(図1)。また、専属大工の能力で重視する点では「木材の扱い」、「和室造作」、「マナー」、「リフォーム工事」など多くの項目が上位に得点されていました(図2)。また、社員大工に期待したい能力では、「納まり」、「木材の活用」、「墨付け・刻み」、「工程説明」、「和室造作」などが上位でした(図3)。

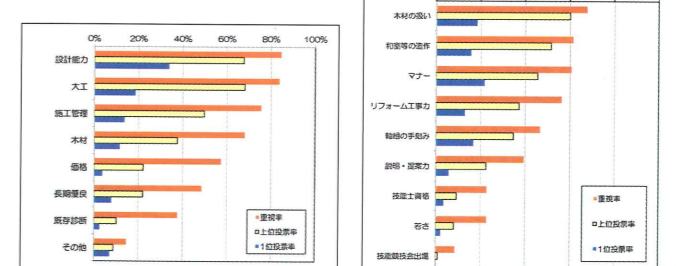


図1 注文住宅のセールスポイント(重みづけ順)と大工の位置
*重視率:投票順位1位から8位までの投票数に8から1までの加重係数を乗じた総和を有効投票総数(447×8)に対する割合(%)。有効投票のうち上位の割合が高いほど高い値になる。
上位投票率:3位までに投票した割合、*全投票率:いずれかの順位に投票した割合

○「大工エキスパートJBNマスターズ」への要望

日時:2013年11月13日(水)・14日(木)
会場:グランドプリンスホテル広島
参加選手(JBN工務店推薦) 新人大工部門 30名 リーダー大工部門 30名
何らかの意見が記された回答数は全体の¾を超え、そのうちの¾が関心の高さがうかがえる内容でした。広島大会を楽しみにしています。頑張ってください、という激励のコメントもありました。本誌「お知らせ」欄でも案内し、早急に運営方式、課題の確定をする予定でしたが、今回の調査結果を反映させ、効果の最大化をねらいとして、「大工育成WG」を設置し、慎重に検討することになりました。方針としては、新人部門とリーダー部門で大工技能(8時間)を競い合うことを通じて、これからの地域工務店の戦力であり看板となる大工像を確立することがねらいです。「新人部門」は(建築大工技能検定2級)、「リーダー部門」は(同技能検定1級)の課題にそれぞれプラスα(創造力・応用力)することを検討中です。課題の発表は、6月早々にHPで公開します。合わせて、参加選手の資格条件、エントリーの方法、エントリー者を対象とした研修(本年度「大工育成のための短期集中研修」)の日程なども発表する予定です。全国大会に先立って開催し、優秀者とともにその事業主の顕彰も行う予定です。